

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 槻田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

| 教科に関する調査（国語、数学、英語）                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 |
| ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容                |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査                       |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

### 3. 教科に関する調査結果の概要

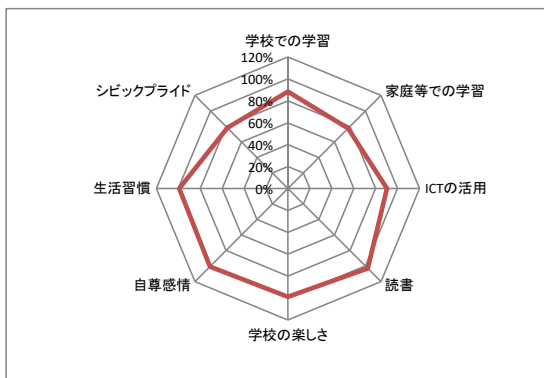
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 数学    |       | 英語    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 10.3  | 69    | 7.3   | 49    | 6.8   | 40    |
| 全国     | 10.5  | 70    | 7.6   | 51    | 7.7   | 45    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |                                                                     |             |
|----|-------------|---------------------------------------------------------------------|-------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 基礎的な知識・学力は身につけているが、それらを関連させて内容をとらえたり、自分の考えをまとめたりすることを苦手としている。       | 全国平均正答率との比較 |
|    | よくできた問題     | インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する                                    | 下回っている      |
|    | 努力が必要な問題    | 現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く                       |             |
| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 基礎的な知識・学力は身につけているが、それらを活用して他者に説明することを苦手としている。                       | 全国平均正答率との比較 |
|    | よくできた問題     | グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する | 下回っている      |
|    | 努力が必要な問題    | 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する           |             |
| 英語 | 全体的な傾向や特徴など | 情報を正確に聞き取ることはできているが、それを文章にしたり、要点をとらえることは苦手としている。                    | 全国平均正答率との比較 |
|    | よくできた問題     | 学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するままとりのある文章を書く                | 下回っている      |
|    | 努力が必要な問題    | 水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する                                      |             |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人の役に立つ人間になりたいと思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。</li> <li>・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）」との問いに対し肯定的な回答した生徒の割合が低かった。</li> <li>・「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」との問いに対し肯定的な回答した生徒の割合が低かった。今後「シビックプライド」の形成を目的とした取り組み等が必要である。</li> </ul> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

各教科とも基礎的な学力は身につけているが、それらを活用したり関連づけて自分なりの考えを導き出したりすることを苦手とする生徒が多い。そのため資料や情報を多角的に読み取り、関連付ける力を育てる取り組みを各教科で行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）」との問いに対し肯定的な回答した生徒の割合が低かった。そのため教員からの具体的な指導や生徒相互の評価、情報交換を有効に活用するなど、より効果的な学習習慣の定着を図る必要がある。また、総合や学活等でより良い自学の方法などを生徒主体で話し合わせる取り組みも必要である。